

お元気ですか

2025年7月 207号



発行所 (福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター
〒231-8482 横浜市中区桜木町1丁目1番地
横浜市健康福祉総合センター9階
☎045-681-1211(代表) ☎045-680-1550
🌐<https://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/>
編集発行人 内嶋 順一

横浜市 障害者支援センター

🔍 検索

「R6事業報告、R7事業計画」
「連絡協共催研修」
「写真展」



マスコットキャラクター
「じゅチューくん」

広報紙の配布からつながる手と手 支え合うみんなのまちづくりへ

よこはま障害者共同受注総合センターわーくる(以下わーくる)に、自治会から「広報よこはま」の配布ができる障害事業所を紹介してほしいと相談がありました。わーくるが調整し、事業所と自治会とがつながった「瀬谷区本郷第七自治会」の取り組み例をご紹介します。



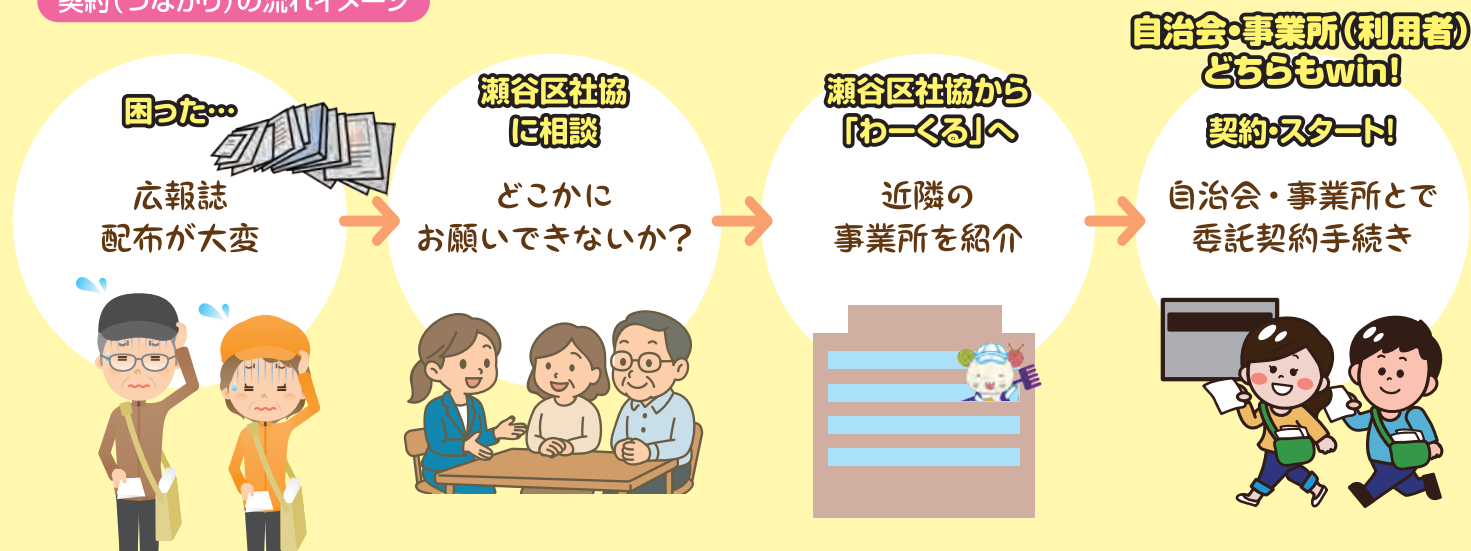
本郷第七自治会 護国会長の想い

自分達も高齢になり、広報紙の配布は毎回量も多くて重く、困っていました。そんなとき、「福祉よこはま」^(※)で自治会が事業所にお仕事として依頼しているという記事を読み「これだ!」と思い、すぐに瀬谷区社会福祉協議会(以下瀬谷区社協)に相談しました。

(※)注:年4回発行している横浜市社会福祉協議会の機関紙・福祉の広報誌です。

地域活動支援センター ベンチ 佐々木施設長の想い

利用者の方の日々の活動を確保し工賃を向上していくため、仕事を探していました。また、地域に自分達のことをもっと知ってほしいという思いも持っていました。今回、わーくるから近隣の自治会で広報よこはまの配布作業ができる事業所を探しているとの相談を受け、ぜひお役に立てたらと思い、引き受けました。



瀬谷区社協 地区担当 西郷さんより

護国会長から連絡をもらい、なんとか皆さんの思いを叶えたく、わーくるに相談しました。ベンチさんに依頼できることとなり区社協としても嬉しく思っています。地域ともしっかり関係を深めたいけどどうしていいかわからない...などお困りのことがありましたらぜひ区社協にご相談ください!



地域活動支援センター ベンチ 佐々木施設長より

活動を通じて、地域の方々に障害のある方への理解を広げていただく機会となるとともに、利用者の方の工賃の向上にもつながるため自立への助けともなり、嬉しく思っています。同じ地域の仲間として、関係を紡いでいきたいと思っています。

本郷第七自治会 副会長より

みんなが無理のない形で活動することがこれからの自治会活動に求められることだと思います。自治会の負担も減り、障害のある方に仕事としてお願いでき、顔の見える関係へとつながったことはとても良かったです。一緒に支え合い、地域の活性化につなげていけたらと考えています。



地域の中でつながりを深めていきたい事業所と自治会とがつながり、仕事を通じて顔の見える関係を作ることができました。



地域活動支援センター ベンチとは...

精神障害のある方々が自分らしい生活ができるように日々の支援をしながら、地域社会に生き、社会に参加するお手伝いをしています。

「陶芸作品や廃油石けんなど、作ったものを喜んで買ってくれると頑張った甲斐があると感じる」「役に立っていると思うと嬉しい」と、ベンチでは日々生き生きとさまざまな活動に取り組んでいます。



※令和7年3月取材



お仕事の相談、登録の相談、お待ちしております!

よこはま障害者共同受注総合センター「わーくる」
TEL: 045-306-9910
MAIL: juchuu@yokohamashakyo.jp

▼ホームページはこちらから▶

わーくる 検索



今後「障害と福祉のウェブマガジン With Me」では定期的にインタビュー記事をアップし、記事を通して障害のある方々の想いを届けていきます。多くの方に読んでいただけるよう、ぜひ様々な場面でご紹介いただければ幸いです。

[illegible]

佐藤さん(左奥)と青柳さん(右奥)
メンバーの篠崎さん(左手前)、増田さん(右手前)

クラブハウスすてっぷなな 20周年

都筑区にある、高次脳機能障害の方を対象にする事業所「クラブハウスすてっぷなな」は、今年で開所20周年を迎えました。統括所長の野々垣さんとメンバー（通所者）さんに、立ち上げの思いや20年の軌跡を伺いました。

高次脳機能障害はそれまで障害と縁が無かった方が、事故や脳卒中などの病気をきっかけに発症するため、自分の障害を理解できないことが少なくありません。同じ境遇の仲間とともに、自分と向き合う場所が必要だと感じた野々垣さんは、高次脳機能障害の診断基準が平成16年3月にできたことをきっかけに、その翌月、「すてっぷなな」を立ち上げました。

竹藪の手入れ作業



統括所長 野々垣 睦美さん



「すてっぷなな」ではメンバーの皆さんが地域で生き生きと過ごせるよう、地域との関係性を大切にしています。農福連携の一環で近隣の農家さんの畑作業のお手伝いをしたり、竹藪の手入れ作業を行っています。

東日本大震災による停電の際は、向いの車屋さんが車のライトで事業所を照らし続けてくれたそうです。それをきっかけに地域の方との関係が深まり、夏祭りに参加するようになりました。メンバーが苦手なことを自ら地域の方に伝え、具体的にどのように手伝ってもらいたいのか説明する。このような経験を通して、社会生活の術を身に付けてもらいたいとの思いで活動を支えているとのこと。

すてっぷななを卒業した方からの手紙に「第2の人生に安心と楽しさ、自分の存在価値、場所を用意してくれて感謝しています。仲間との出会って大切」とありました。この言葉に尽きる。この居場所を継続し、いつかはどの事業所にも高次脳機能障害の方が通所できるような環境を作り出したい。そんな思いを野々垣さんはお話してくださいました。

メンバーの瀧口さんは14年間すてっぷななに通所することで、自分の症状（記憶障害・注意力障害）について知ることができたそうです。メモをとりながら進める自分なりの方法を見つけて、一人で時間内に作業を行えるようになったとのこと。

「すてっぷななで自分の苦手なことや自分にまだ知識がないことをできるようにして、自信をつけたい。そのあと、自分のやりたいことを見つけて働きたい」との力強い抱負を伺うことができました。

メンバー 瀧口 裕貴さん



20年という節目を迎えた「すてっぷなな」、これから地域の方とどんな取り組みをされるのか、メンバーさんがどんな活躍を見せてくれるのか楽しみです。



望遠鏡

事業所開設から20年。「(高次脳機能障害を)知る・気づくから未来を育む」をコンセプトに活動してきましたが、これは障害に限ったことではなく広い意味で大切なことだと感じています。都筑区は農業専用地区が多く労働力不足に悩む農家さんが多く、そして障害者事業所の数も多いエリアです。うまくマッチングできればなにかできるのではないかと農福連携を始めたことで地域とのつながりが深まり、利用者さんそれぞれに合わせた作業の選択肢も増えました。地域を知り未来を楽しむ活動を続けていきたいと思います。

野々垣 睦美